

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>



Report -授業事例-

資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」へ 計画訪問より…キーワードは「単元で育成」「アウトプット」「振り返り」「ICT」、 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

幼稚園 ねらい 「教師の近くにいる友達の様子を感じながら、やりたいことをして遊ぶ」

年少3歳児クラスにおいて、「やってみたい」「楽しそう」などやりたい遊びを子どもが自ら見付け、主体的に環境と関わり遊ぶことをねらいとしています。子どもは「トントントン」と声に出しながら道の修理を楽しみ、何度も繰り返しています。繰り返すことで、リズムや動きの楽しさを味わっています。教師は、子どもが楽しいと感じていることを一緒になって、楽しみます。このように、子どもが何に興味・関心を持ち、面白さを感じているかをじっくりと見つけ、見取り、まずは個の遊びを十分に保障し、プロセスを大切にする指導をしていました。



ほくもトンカチでトントントンと道をなおすよ！！



どんぐりが足のトンネルを転がっていくよ！

特別支援学級 自立活動 単元名「みんなでゲームをしよう！」

ゲーム中に想定される自分が困る場面について、自分の行動を客観的に考えることを通して、自分の課題と向き合い、折り合いをつけようとする力を育むことをねらいとした自立活動でした。子どもたちに生起する負の感情を「〇〇モンスター」と称し、子ども自身が困っている状況は「〇〇モンスター」にいたずらをされている状態とすることで、自分の行動を客観視できるように工夫していました。ゲームを始める際には、自分にとっての課題となる「〇〇モンスター」と、それに打ち勝つためのスキルカードを自己選択させ、それを全体で共有していました。その手立てによって、子どもたちは自分の行動に気を付けながら、最後までゲームを楽しむことができました。



スキルカードで、モンスターのいたずらを防いでいて、えらいよ！！

中学校 第3学年音楽 単元名「Garage Bandを用いて校歌の編曲をしよう。そして曲の方向性に合ったアウトロを作曲しよう。」

iPadのアプリ、Garage Bandを活用し、自分で編曲、創作を行い、それを学級全体で鑑賞し合うことで、自分の作品をよりよいものにしていく活動でした。

Garage Bandを活用することで、生徒は自分のアイデアや思いを曲に反映することができるので、とても楽しそうに活動に取り組んでいました。



僕は、自分の気持ちを、曲のテンポや楽器を変えて表すよう工夫しました

資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」へ

計画訪問より…キーワードは「単元で育成」「アウトプット」「振り返り」「ICT」、
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

個別最適な学びとは？協働的な学びとは？

子どもの視点からの整理として

【個別最適な学び】

子どもが自己調整しながら学習を進めていく

【協働的な学び】

異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

これらを一体的に進めることが大切です！

個別最適な学びの2つの視点

指導の個別化【主に基礎・基本】

- ・支援が必要な子どもに重点的な指導を行う。
- ・特性や進度、到達度に応じ、学習方法・教材・時間等、柔軟に提供・設定する。


学習の個性化【主に探究・発展】

- ・興味・関心に応じ、個々の子どもに応じた学習
- ・課題や学習活動に取り組む機会を提供する。

個別最適な学びを実現する考え方

学習の主体
は子ども！

学習方法

		教師	子ども
課題・内容	教師	課題・内容と学習方法を教師が示す  A	課題・内容を教師が示し、子どもが学習方法を 選択・決定する  B
	子ども	学習方法を教師が示し、課題・内容を子どもが 選択・決定する  C	課題・内容と学習方法を子どもが選択・決定する  D

A～Dは、授業改善を図っていく上での順序性を表しているわけではありません。単元の特性やねらい、子どもの実態に応じて、適宜取り入れていくための、どれも必要な指導、支援です。

Key Wordは

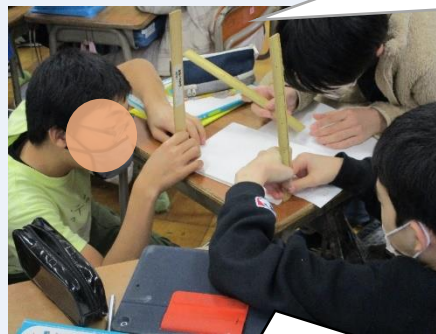
教師：選択肢の提供

子ども：自己決定・自己選択

小学校 第6学年算数 単元名「比例と反比例」

単元の導入場面、5年生時の比例の定義を学んでいる子どもたちに対して、「数えないで紙の枚数を調べる方法を考える」という課題を提示しました。子どもたちは、大量の紙の束の枚数を数えないで調べるにはどうしたらよいか、既習の知識と結び付けて考えます。子どもたちは、紙の枚数に対して伴って変わる量を見付けることで、倍の考えや比の考え、単位量当たりの考えを駆使して、自分なりの考えで紙の束の枚数を予想していました。学習課題や内容は教師が示しますが、課題解決に向けた方法は、**子どもたち一人一人が自己決定し**、取り組んでいました。自分で決めた学習方法だけに、どの子どもも真剣かつ楽しそうに、解決に向けて友達と協働しながら学習を進めていました。

Bの学習場面が見られた授業例



まずは、10枚で何センチか調べてみようよ！



ねえ、どんな方法で調べた？ 答えは怎么样了？

「子どもがまんなか」の充実した教育活動を



幼保こ小の接続期の教育の質的向上を意図して実施している「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」。小学校側の「スタートカリキュラム」は、「第3ステージ」に入っています。

第1ステージ

平成20年の「学習指導要領解説 生活編」で登場。学校生活に適應できず、集団行動がとれないなどの状態が続く「小1プロブレム」を解決するための方策として取り組んだ。

第2ステージ

平成27年に「スタートカリキュラムスタートブック」（国立教育政策研究所発行）が出され、「1年生はゼロからのスタートではない！」が合言葉になり、幼児期の「遊び」は「学び」であることが注目され始めた。

第3ステージ

平成29年の「小学校学習指導要領 第1章総則」の中にスタートカリキュラムが位置付けられた。**子どもたちの育ちや学びを引き出すという、教育の発想の転換が求められている。**

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、**児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする**こと。「小学校学習指導要領 第1章第2の4の(1)」p.73

今ある「スタートカリキュラム」を「第3ステージ」に合わせていくために、作成時、指導時に下の4点をそれぞれ工夫してみましょう。

生活科を中心とした合科的・関連的な指導

園では、遊びを通して小学校の教科学習につながる内容を総合的に学んでいます。特に、4月当初は、「この時間からは〇〇」と分けて学ぶよりも、**一連の活動の中に各教科の学習内容が溶け込んでいる方が学びやすいです。**

全ての教科の単元配列表を俯瞰し、関連付けられる単元は何かを考えましょう。「4月が終わるから」と時期で区切ることなく、子どもの実態に合わせて少しずつ合科的・関連的な指導から教科学習へと分化させます。

◆例：生活科「学校探検」の中で

- ①教務室等へ出入りする活動⇒国語科単元「なんていおうかな」
- ②教室の数を数える活動⇒算数科単元「10までの数」 など

弾力的な時間割の設定

園では、登園後にそれぞれのペースで道具の片付けを終えると、一人一人が自分の思いをもって活動を始め、ゆったりとした時間の中で学びを深めていきます。特に、4月当初は新しい環境で戸惑うことが多いため、「〇時△分までに片付け」など校時表に基づいて時間割を設定すると、間に合わない子どもたちの自己肯定感を損なってしまいます。また、**発達段階的に10分～15分間程度の短い時間で活動を構成することが望ましいです。**子どもたちの様子を見ながら、少しずつ小学校の生活リズムに整えていきます。

◆例 ①登校後～9時・・・片付け&遊びタイム

②9時～・・・なかよしタイム=あいさつ・元気かな?・お歌 など

「1年生」に対する意識改革を!

園での遊びを通して、子どもたちは多くのことを学んでいます。私たちが思っているよりも多くのことを知り、できるのです。「教師の指示に従う」、「学校生活について教えないといけない」、「行儀よく座って聞く」などの固定的な「1年生」観を変えていきましょう。

子どもは学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手です。先生方の肯定的な子ども観と共感のまなざしや声掛け、そして、**温かな笑顔**により、子どもたちは安心感をもち、自己発揮していきます。

経験を生かし、考えを引き出す言葉掛けを

多くのことを知り、できる子どもたちです。教師から知識を押し付けたり、否定したりせず、**待つ・聞く・認める**ことが大切です。学習でも生活でも、子どもに「**園ではどうしてきたの?、「どうしたいかな?」、「どう思いますか?」**などと尋ね、子どもの経験や考えを語らせましょう。

特に、生活上のトラブルはルール作りの絶好のチャンス!園での経験や一人一人の感じ方を問いながら、小学校生活のルールを子どもたちに作らせます。教師が教え込むよりも、子どもたちは自らルールを守るようになります。

園での経験や考え、小学校生活への不安や心配事などを出し合い、みんなで考える楽しさや解決できたときの充実感や達成感を何度も味わうことが、次の学習や行動への意欲につながります!

参考になります!

「スタートカリキュラム」に関する国のリーフレットや、年長児から小学校1年生までの学びをつなぐ「架け橋プログラム」に関する動画のQRコードです。考え方や取組例が分かりやすく示されているので、校内研修等にもお勧めです。



スタートカリキュラム
スタートブック



年長から小1の学びをつなぐ
「架け橋プログラム」



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
を「架け橋」に活用するために

高等学校・中等教育学校（後期課程）

「探究的な学習」

新潟市教育委員会では、新潟市立高等学校・中等教育学校の魅力化・特色化を図るため、探究的な学習の充実を目指しています。今号では、新潟市立高等学校・中等教育学校の探究的な学習の概要を紹介します。

探究的な学習とは？

生徒が「自分なりに問いを立て、情報を集めて分析し、まとめて、発表する」一連の学習のことです。自ら立てた問いを探究することから、学ぶ意義が自覚されるとともに、学びへの意欲が高まると期待されます。なお、高等学校学習指導要領(H30年告示)では、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に改められ、新教科「理数」に「理数探究」が新設される等、探究的な学習を重視しています。

1 万代高等学校 「総合的な探究の時間（水都ゼミ）」

「教える」から「考える」へ、生徒と教師が同じ地平で共に探究する姿を目指し、年次(学年)毎に重点目標を定めて学習を構成しています。

1年次(1学年)では、「プロジェクトBandai」と称し、様々な事業所からサポーターを招き、サポーターと共に課題発見・解決をしていく探究活動を行い、地域社会の諸問題について考えています。

2年次(2学年)では「学問分野×新潟市のこれから」をテーマに、各自が興味・関心を持つ学問領域を通して世の中にある課題について考察します。また、理数コースでは、自然科学分野の実験や観察を重視して、身近な事象に論理的に切り込む「課題研究」も行っています。

3年次(3学年)では、「探究レポートの作成」をテーマに、1・2年次での学習を総括し、レポートとして発表します。



新潟市職員や、各方面のエキスパートをサポーターとして招き、生徒の視野を広げています。



理数コース課題研究会。発表後の質疑も大切な学習です。

2 明鏡高等学校 「総合的な探究な時間」

自己の在り方・生き方や進路に関わる課題を追求課題として系統的に構成しています。

1年次(1学年)では自分自身を見つめ、自己理解を深めていきます。

2年次(2学年)では職業に関わる体験等により進路実現に向けて考えていきます。

3年次(3学年)や4年次(4学年)では再度自分の生き方・在り方を考え進路実現に向けて考えていきます。

「体験」や「講演」、「事業所担当者説明会」など学校外の方との交流等を大切に、知識と実体験を結び付け、生徒の課題意識の醸成と追求活動の質的向上を進めています。



事業所担当者説明会。自分の生き方・在り方を深く考えていきます。

3 高志中等教育学校 「グローバルフィールドスタディ」

6年間を通した探究学習を「グローバルフィールドスタディー」と名付け、系統的に構成しています。前期課程はグループ追究とし、探究のサイクル(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)を経験します。後期課程では、より高度な内容により個人探究活動を行います。

後期課程の個人探究では、県内の大学などに協力をお願いしています。大学教員の方をお呼びして探究の方法についてアドバイスをいただいたり、テーマ毎に少人数でzoom会議を開き、研究内容について専門的なお話をいただいたりしています。このような活動を通して、生徒が自分の将来について考えを深め、進路実現に向けて意欲的に努力していくことを目指しています。



ポスターセッション形式で行われた発表会の様子。探究の過程で指導・支援を受けた専門家の方をお呼びし、さらにアドバイスをいただきました。